Ⅵ．リソースを利用した学習

～多様な学習を支援する教育リソース～

リソースを利用した学習で、教師の負担を軽減し、より学習の質を高めるかが課題である。

木田宏氏はオーラルヒストリーで、教育センター、地域の大学の教育学部、教育委員会等では、教師が地域のカリキュラム資料が訪問すれば提供して、学校で利用できるようにすべきとよく言われていた。

現在は訪問しなくても高速通信を用いて各学校・教室で地域資料を受け取れて、利用が可能な時代になってきた。それを児童・生徒が生成 AI 等を使い処理・加工し、課題解決に利用できる。

教育リソースを用いて、新しい学びの展開の支援ができる時代になってきている。教育の関係機関が学習の質を高め、教師の働き方改革を進めるかが重要な時代になってきている。

削除 ．

削除 Ⅳ-3-4.教頭だより ．

書式変更

書式変更

書式変更

表の書式変更

書式変更: フォント : (英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更: フォント : (英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更

書式変更: フォント : (英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更: フォント : (英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: インデント : 最初の行 : 1 字

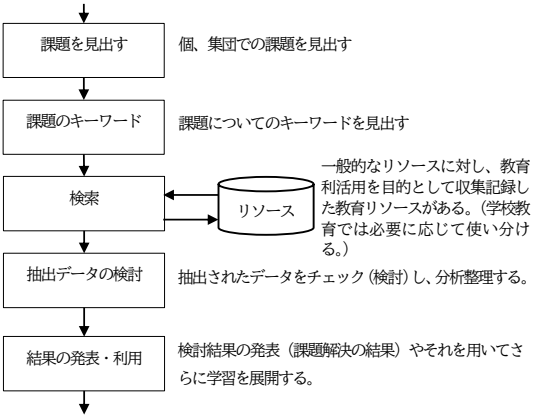
Ⅵ. を利用した学習～多様な学習での教育リソースの利用～
Ⅵ-1. 一般的なリソースの利用
Ⅵ-2. 課題解決での教育リソースの活用(オープン教育)
Ⅵ-3. 個人学習での資料の活用(高校物理の例)
　高等学校物理の個人学習と CMI の利用
Ⅵ-4. 調べ学習での教育リソースの活用
Ⅵ-5. 遠隔共同(協働)学習の課題解決での利用
Ⅵ-6. 修学旅行等の案内の情報
　～教育リソースを用いた沖縄おぅらい(修学旅行用)について～

VI. を利用した学習～多様な学習での教育リソースの利用～

リソースの学習での利用は、昔からなされてきた。とくに課題解決や探究の過程での学習資料の利用として、地域の多様な資料（自然、社会活動、家庭生活等）、さらに歴史的資料の活用は、昔から利用し、学習の支援情報としての利用が進められてきた。

VI-1. 一般的なリソースの利用

とくに、リソースのデジタル化が 1980 年代から始まりだし、教育でも教育実践での各種資料のデジタル化保管が進みだし、課題解決学習ではおおよそ次のような手順で学習が展開されてきた。



図VI-1　リソースの利用

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: 中央揃え

さらに、学習者の状況に応じて、使い易い構成にして提供させ、それを利用して、課題の解決、探究活動に使われている。

たとえば、修学旅行の各地の案内の調査用の資料管理は、リソースから抽出したデータを旅行中に使い易い構成に変更し、学習者の支援をしている。たとえば、

一つの項目を検索し、その抽出資料を検討し、使い易い構造に配列して提供がされている。このように、いろいろ工夫し、学年・教科に対応した構造で提供され、学習者が目的に応じて使い分けている。次に各種の事例、さらに今後検討しよりよい構成に変更する方向性等について説明する。

Ⅵ-2. 課題解決での教育リソースの活用(オープン教育)

（1）オープン教育では、学習者の主体的な学びとして課題解決として、大きく分けると次の２つの方法がよく用いられている。

①特定の課題を提供し、解決する方法

②一般的な課題を提供し、学習者が特定の課題を見出し解決する方法

これらの実践には、小学校では学習解決に必要とするいろいろな資料を先生方が集め、児童の学習活動で利用できるように準備がされている。児童が資料収集をすることも大切であるが、児童が集め調査するには限度があり、可能な領域と困難な領域に分けて教師が支援する必要があった。その支援するための収集・整理に先生方の負担が多く、実践上の問題があった。

そこで、学校での児童の課題解決に利用できる教育リソース DA を教育センター、博物館、大学、教材会社等が開発し、それを教育委員会等が整理し、各学校で利用できるように提供することは先生方の働き方改革にもなり、役立つと考えられる。

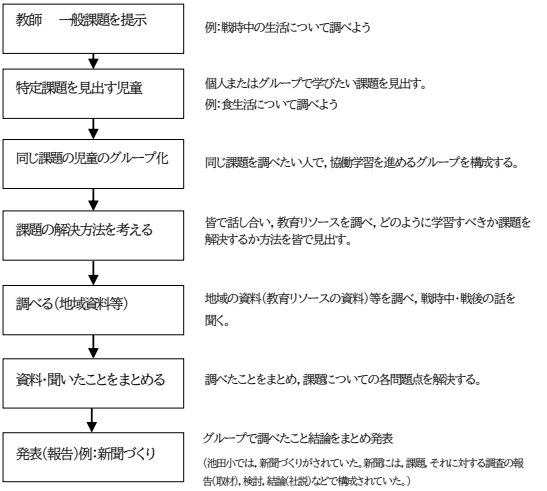
資料・聞いたことをまとめる

（いかに教育リソースで支援するかが課題）

調べて分かったことを発表（新聞作り）

図Ⅵ-2　課題解決の学習の様子

小学校の例



図VI-3　課題の解決の展開

このような学習方法は、生涯学習社会での学びのスキルとしても重要であり、小学校時代から、リソースを使い課題を見出し学ぶカリキュラムを自分達または、個人で構成し、協働学習として問題の解決し、それを総合的にまとめ学びの成果を明らかにする学びでもある。

このような学びの力を小学校の時代から、教育の場で計画的に進め、今後の学習社会で生き抜く力をつける必要がある。このためには、小学校での情報端末を学習の道具として自由に使い、教育リソースから課題を見つけたり、課題の解決の方法を考えたり、学びに利用できる力をつける必要がある。(新田直)

（2）オープン教育での授業の展開と資料のデータ化について

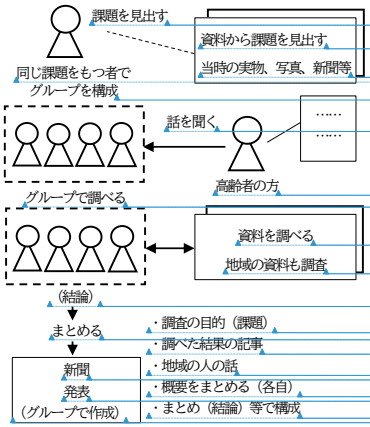
オープン教育では、多様な資料から課題を見出し、同じ課題を持つ児童が集まり、グループで資料を調べ整理し話し合い、課題を解決し、発表する協働学習が進められていた。たとえば、戦時中の生活についての学習では、

(a)戦時中の各種資料を調べ、自分の課題を見出す。

(b)同じ課題をもった者で、協働で資料を調べ話し合い解決していた。この協働学習では、資料の他に地域の高齢者の方に戦時中の話を聞き、実物や当時の新聞資料・写真を調べ、グループで話し合い、結論を得ていた。

(c)まとめる（新聞作り）・発表

まとめる方法としては、各分担を決め、目的、 調査、昔の話、各自の意見、まとめる（結論）等の協働学習が進められた。



図Ⅵ-4 オープン教育の流れ

○教師は資料の収集・整理・展示と高齢者への話の依頼等の対応で大変であった。このため、教師の負担が多く、実施が困難なことが多くあった。

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

書式変更

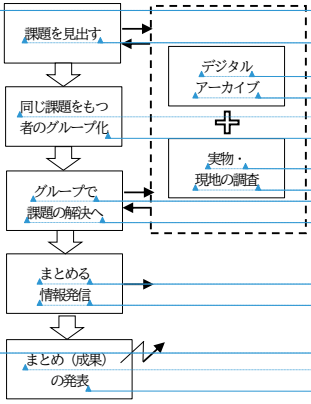
書式変更: フォント：BIZ UDP明朝 Medium, 8 pt

県、市町村の教育センターや企業等が地域資料のリソース（教育リソースDA）を開発し、各学校が使うようになれば、教師の負担も少なくすることができる。また地域の方々が学校へ来て説明されていますが、通信（テレビ電話等）を使い、家からや、現地での状況を説明できる。

図Ⅵ-5　オープン教育での実践

③資料管理はデジタルアーカイブで

当時は、実物や印刷・写真資料を集め、整理し、単元の学習が終われば次の資料の整理が始まる大変な作業であった。オープン教育での教材資料の収集・整理は、教師にとって大変な作業負担であり、学びに必要な資料を共同で収集し、これらをデジタルアーカイブで保管し、教師の負担を軽減することが可能である。



図Ⅵ-6　オープン教育での課題の解決

GIGA スクール構想では、全児童が情報端末の利用が可能であり、課題を見出すのもデジタルアーカイブのコンテンツを調べることができる。また、協働作業では、デジタルアーカイブや必要に応じて実物等も調べ、話し合い、課題を解決する。

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium
書式変更
書式変更: 右揃え
表の書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更
書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, 9.5 pt

その成果（結果）を分担で決め、情報発信する。このとき、全てデジタルアーカイブでの資料活用・調査ではなく、実物もあわせて調査すべきでしょう。教育リソースは、教育センター、市町村、企業、関係機関等や先生方が協力し、一度開発すれば、毎年利用ができる。

また、教材会社等では現在の資料集（出版物）をカタログ（メタデータとサムネイル）と児童が調査結果を記入できるスペースをも印刷物で構成し、教育リソースのデジタルコンテンツをバーコード等で検索抽出し、情報端末に提示できるようにして、新しい資料集をとして販売すべきである。先生方の負担をいかに減らし、教育的な質の向上を図ることが重要である。

完全な個別学習とは言えないが、主は個別学習であり、それに必要に応じ協働学習を組み込んだ学習展開をいかに自動化するかが今後の課題である。とくに、地域の人々の話を聞く場合、必要に応じて地域の人々をお願いすることは現実的に困難であり、これらのデジタル化による記録し毎回利用できる方法を考えるべきである。

（注）オーラルヒストリーの教材化～地域の人々の話の教材化～

調べ学習ではよく地域の話について、地域の高齢者の方にお願いし戦時中の話や、地域の昔の生活の話を子ども達が聞くことが多い。このとき、学校に高齢者の方々に来ていただき話を聞くこともよくされていた。しかし、現実にもう戦時中の話も戦後８０年になり聞けなくなり、このためオーラルヒストリーとして記録がなされだした。

図Ⅵ-7　地域の高齢者の方に話を聞く

これらのオーラルヒストリーの記録をいかに利用するかも、個別学習の自動化での活用も配慮してこれらの教材化を進める必要がある。

たとえば、戦時中の話を聞き、これを記録しデジタルアーカイブに保管がされている。これらを全て授業中に聞くことは時間的に困難であり、これを必要に応じて数分～１０分程度に区切り利用できる教材化が必要である。

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

たとえば、戦時中の生活のオーラルヒストリーでは、

① 食生活（食べものについて、どのように食料を得るか、何を食べていたか等で話をまとめる。）

② 衣類について（どのような衣類であったか。空襲警報が出たとき、など）

個別学習の自動化に対応した教材化が必要であり、また、それにより個別学習の実現を図る必要もある。

地域の人々の話は、デジタルアーカイブとして多くの記録が始まっている。たとえば、沖縄では、

戦中・戦後の子どもの視点からのオーラルヒストリー（仲本實氏）

エイサーのオーラルヒストリー（宜保榮治郎氏）

首里城についてのオーラルヒストリー（高良倉吉氏　元琉球大学教授）

久米村についてのオーラルヒストリー（具志堅以徳氏）

沖縄の芸能文化　　（大城學氏　元琉球大学教授）

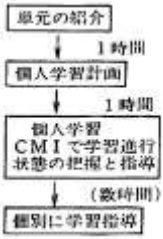
など、デジタルアーカイブ化され、地域のオーラルヒストリーと関連映像資料を学校教育でも利用可能である。

そのためには、ただ集めて記録・保管するだけでは利用ができない。これを校種・学年のレベルに応じて利用できるように教材化することが重要である。たとえば、学年にとって重要な話の領域を選定・抽出し、数分～数十分の話としてまとめ、提供できるようにすることが大切である。これらの話を、児童・生徒が自由に選び、課題解決の一つの資料として活用できるようにすべきである。大学、教育センター、教育委員会、企業等がオーラルヒストリーから抽出、選定、加工し、いかに提供するかが重要である。

VI-3. 個人学習での資料の活用(高校物理の例)

高等学校物理の個人学習とCMIの利用

ある高等学校において、図に示すように、生徒一人ひとりが単元の学習計画（数時間）を教師と相談して決め、各自がその計画に従って学習を進めており、個人学習としてその成果が注目されている。最初にその方法を説明すると、単元の初めに教師が1単元の学習内容を紹介し、第二時限目に各生徒が各自でこの単元の学習計画を教師と相談しながら決める。



図VI-8 個人学習の展開

このとき使用する教材は、図の「個人学習法教材一覧表」に示すように教師が前もって用意する。各教材には短い解説を付けその教材を学習したときの得点を示しておく。そして生徒には、その得点の合計が指定された点になるように選ばせる（得点は、各教材の一種のウェート表示である）。生徒は各自で選んだ教材を用いて学習計画を立て、数時間の学習を進める。

教材の準備へのCMIデータベースの利用

このような学習を行うためには、教師は一斉授業と違い、図に示すように多数の教材を用意しなければならない。授業だけではなく種々の仕事を扱っている多忙な教師にとっては、この方法を実施しようとしても準備のための時間が取れず、結局計画のみに終わることが多い。この問題を解決するために、最近の計算機の日本語、検索処理機能の向上により、このような学習法での教材の準備に役立てようとCMIを利用し、教材データベースの構成の共同開発がなされるようになってきた。教材データベースには、実験VTRテープ、図書、その他の学習資料が記録され、学習内容、教育目標、レベルなど属性により検索できるのである。今後、これらの個人学習資料を記録するデータベースの共同開発が、各教科で進めば、さらに新しい学習指導の方法の発展が期待できる。

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: 中央揃え

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium, (日) BIZ UD明朝 Medium

学習の進行状況の把握のためにCMIの利用

各生徒が自分で立てた学習計画により学習を進めると、教師にとっては、その掌握が困難である。授業時間中は、教師は、生徒の質問への対応、実験法の説明等の指導に追われて、各個の学習進行状況を把握するところまで手が回らない。授業後は、それぞれの生徒が次の時間に必要とする教材教具の準備（たとえば、実験器具、VTRテープ、本等の用意）も行わなければならない。

また、このような学習法では、とくに各生徒の学習進行状況に応じた個別の指導を行う必要があるが、高等学校のように1人の教師が、ときには合計200名近い何クラスもの生徒を教えているとき、その実施は大変な仕事となる。

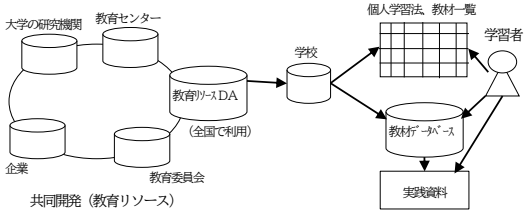
これらの問題を解決するために、CMI の学習記録を用いれば、各個の学習状況を把握することができる。たとえば、学習記録ファイルに各生徒の学習計画と毎時の学習進行の状況を入力しておけば、個の学習上の問題点、および次の時間に教師が準備しなければならない教材教具等を知ることができる。

教育における電子計算機は、導入自体を目的にすることなく、ぜひ教育実践での問題を解決する一つの手法として活用したいものである。とくにCMIは、それによって教育ができるものではなく、教師が自分の教育目的に応じて使用するものである。岡崎先生作成の表を次に示す。

現在は、教育研究機関、大学、教育センター、教育委員会、企業等の協力で、表の教材に担当する資料（教材）を教育リソース・デジタルアーカイブとして収集・記録・管理し、著作権等の権利処理も解決し、教師の必要に応じて利用が可能にすれば、広く多くの教師が実践可能となる。

教師には、権利処理等の負担もなく利用できる教育リソース・デジタルアーカイブの開発が望まれる。

Ⅸ．教育リソース・デジタルアーカイブとメタデータ



図Ⅵ-9　今後の教育リソース・デジタルアーカイブを用いた個人学習法の検討

個人学習法教材一覧表　－自由落下運動－

番号	教材	内容参考	配点	自己評価	教師評価
1	年間１回 自由落下 アンケート	自由落下運動（ガリレオの実験）のアンケートを読んでまとめる	30		
2	年間　　No.1	落下運動（19世紀初頭）記録ライターによって重力加速度を求める	15		
3	同　　No.2	17世紀の実験　メルゼ 斜面をころがる球の時間を水時計で測定	15		
4	同　　No.3	単振り子により，重力加速度を求める	15		
5	同　　No.4	音叉，落下運動をさそや，重力加速度を求める	15		
6	同	自分の反応時間を求める	10		
7	物理基礎（Ⅰ）	物理問題　全国模試No.1～6	10		
8	〃　（Ⅱ）	練習問題A　No.7～13	各3		
9	〃　（Ⅲ）	練習問題をエクアディオ ドイツより	各3		
10	〃　（Ⅳ）	応用問題　No.17～23	各5		
11	V T R　10	落下運動Aをみてまとめる 科学技術庁作成	10		
12	V T R　10	落下運動B　〃　広井祐先生			
13	V T R　10	落下運動C　〃　水丸俊門先生	10		
14	読み物　1	エピソード科学史　湯浅年子 アラー84	10		
15	〃　2	おもしろい物理学　P.12～183	10		
16	〃　3	続おもしろい物理学　P.12～125	10		
17	〃　4	続々おもしろい物理学　P.9～82	10		
18	〃　5	ガリレオ・ガリレイ 岩波新書	20		
		合	計		

図Ⅵ-10　個人学習法教材一覧表

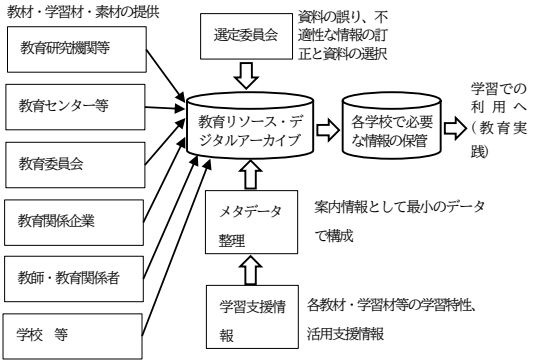
岡崎先生のこのような実践は、今後教育リソースが整備できれば、各種の資料・

図書を集める大変な作業も楽になり、また、学習者が自分で調べることも可能になる。

GIGA スクール構想で、情報端末が１人ひとり持っているので、多様な教育リソースを教育センター等で開発すれば、岡崎先生が高等学校の物理で実践されているが、小・中学校でこのような学習が当然できるであろう。（池田小の例を見ても）

学習社会を生き抜くためにも、このような課題に対し、自分でカリキュラムを構成し、学ぶ力を、小学校・中学校・高等学校でつけるべきではないだろうか。

現在、教育リソース・デジタルアーカイブの開発が進みだそうとしていて、ぜひ、個人学習法教材一覧表の教材が保管され、さらに多くの関係教材が管理されれば、さらに柔軟性のあるカリキュラムの構成が可能になる。



図Ⅵ-1　教育リソース・デジタルアーカイブの構成の課題

教育リソース・デジタルアーカイブは、ぜひ、大学等の研究機関の DA、企業、教材会社の DA、教育委員会、教育センター等の DA と広くリンクし、関連資料（デジタルコンテンツ）が共有できる状況にし、多様なデジタルコンテンツの管理・利活用を可能にすべきである。そうすれば、個別学習法での一番の困難点で

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: 中央揃え

削除 2

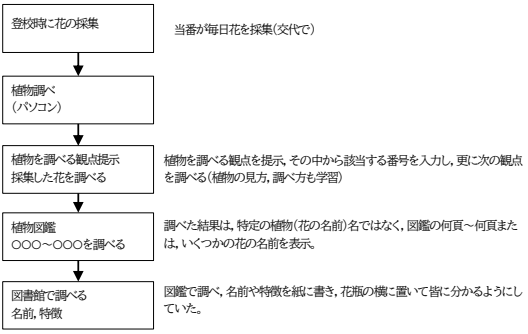
ある教材一覧やその教材の準備がより簡単になり、教師の負担減になる。

「生成 AI の教育用ツールの開発が望まれる」

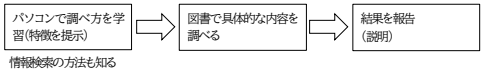
　このような世界の教材を利用し、個人学習法の教材一覧表を各教師により簡単に作れる生成 AI の教育用ツールが開発されれば、さらに新しい学習指導法の展開が可能になると考える。

Ⅵ-4. 調べ学習での教育リソースの活用

　具体的な教材、学習材、素材の提供が、困難なため、調べ学習では、いろいろな工夫がされていた。1 つの例を次に紹介する。児童が毎日、草花を登校の途中で取り、学校の教室の後ろの花瓶に入れていた。しかし、花の名前も記入されていなかった。それで、次のようなパソコンと図書（植物図鑑）と連携させて調べ学習ができるように工夫された。

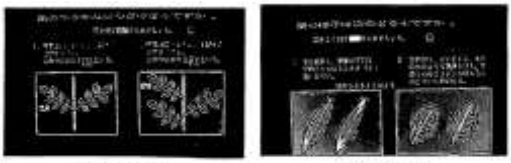


　このように調べ学習では、「もの、こと」の調べ方をパソコンで提示し、その観点で調べさらに図書（図書館）で調べるような方法が用いられていた。



図Ⅵ-12　花の採集と植物の特性を調べる

このように、情報検索の方法やそこでの「もの、こと」の特徴で調べる力を育成し、最後に図書で具体的な特徴を理解するような方法が工夫されていた。（検索の方法、調べ方を学習する最も初期の教材でもある。）…教育リソースDAを上手に使うには、その方法、スキルを学ぶ手順があり、1つの情報活用能力の育成を考えた、検索、調べる方法、技能を習得するカリキュラムが必要である。



葉のつき方の分類　　葉での分類

花での分類

図VI-13 学習指導とコンピューター―学習ソフトの開発とその利用― 続・可能性への挑戦(昭和62年12月27日初版)p.128

（川島小学校）

このように、調べ学習での検索の視点で植物の見方、構造について学習し、さらに具体的な植物名を当時は図書館で調べていた。これに対し、現在では、教育リソース・デジタルアーカイブが図書の代わりになる。すなわち、検索で植物の特性を学習し、リソースで具体的な植物について学ぶ方式が構成できる。

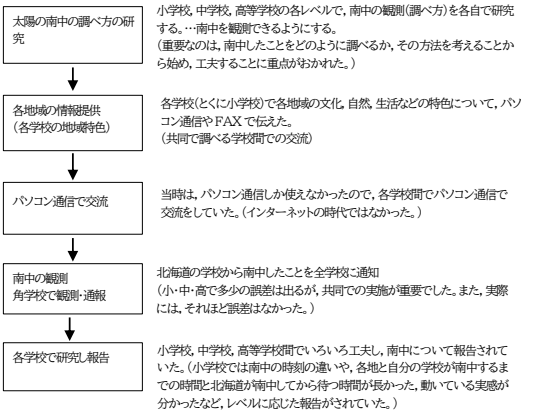
このような調べ学習の方法は、幼、小、中、高等学校で多くの分野で利用可能であり、今後、教育リソース・デジタルアーカイブの整備の自充実が必要である。（川島小学校）

削除 4

Ⅵ-5. 遠隔共同(協働)学習の課題解決での利用

遠隔共同学習は、1980 年頃から始まっている。たとえば、太陽の南中を全国各地で、小学校・中学校・高等学校が共同した事例がある。次のような方法で実施されていた。

太陽の南中の観測と各自の課題の解決



図Ⅵ-14　太陽の南中の実験

たとえば、岐阜県の池田小学校では、図のように、大きな日本地図に各地の産業、農業、生活等の特色についての各学校からの情報を B5 の紙にまとめて記入し、全校の児童に見えるように提示されていた。また、それに南中の観測時刻も記入していた。（実施後）

岐阜北高等学校では、各学校の観測データをもとに、高校生が地球の回転速度の計算をしていた。

インターネットが自由に使えるようになってからは、よく遠隔協働学習の試行がされていた。今後、テレビ会議システムや各学校での地域文化資料のデジタル

アーカイブが開発されると、より質の高い交流学習を進めることができる。

ぜひ、今までの遠隔協働学習の事例を調べ、問題点を知り、より発展させたいものである。（新田直、佐藤正明）

○各種のパソコンの活用とデータベースの連携

パソコンの学習の道具として活用は、1980 年代には、図のような多様な使い方がされていた。

パソコンを学習の道具としての多様な使い方は、多くの学校が初期から授業で実践されていた。

図Ⅵ-15 池田小学校 日本各地の太陽の動き

たとえば、小学校２年生では、太陽の動きを棒の影を1時間間隔で記録し、それを重ね合わせて、どのように動いていたか調べるような方法も用いられた。

○小学生の表計算、グラフ作成、データベース、図形作成（お絵かき）等の簡単な処理システムを作成し、学習の道具として活用していた。

○教材のデータベースから、学習に必要なデジタルコンテンツ（素材等）を抽出し、フロッピーに移し、利用していた。

○通信ネットワーク（インターネット）を使い調べ学習

インターネットが使えるようになると、遠方の地域の HP などを調べ、利用が進んだ。

現在では、インターネットを用いて南中のデータの交流や各地の産業、生活様式、農産物等の情報が Web で調べることができる。また、各地域での南中の観測方法も、映像を使い、その方法についての情報を得ることも可能である。すなわち、どのような方法で南中を調べようとしているのか、その工夫の情報も交流でき、課題解決のプロセスが互いに交流できる。遠隔地との学びの協働化が可能である。このような小、中、高校や遠隔地との協働研究は、多様な分野で可能であり、また、リソースの利用も含めて新しい教育実践での同じデータを使い、小、中、高校でそれぞれのレベルで課題解決の方法として進めたい。

削除 16

（新田直、佐藤正明）

Ⅵ-6. 修学旅行等の案内の情報

～教育リソースを用いた沖縄おぅらい(修学旅行用)について～

一般に観光情報としての案内は、写真に簡単な紹介がされている場合が多い。修学旅行としての案内情報としてさらに充実させるべきである。

このため、「沖縄おぅらい（修学旅行用）」の案内情報では、主要な資料には、写真、動画、さらにこれを結びつける解説、歴史的な背景、各地域との関係等をオーラルヒストリーとして記録、提供し、学びの観点からの充実がなされている。すなわち、高校生が各自の必要に応じて修学旅行で課題をもって行動できる資料として構成した。

（1） 沖縄おぅらいの構成

沖縄おぅらいは、次のような項目で構成されている。

表Ⅵ-1 「沖縄おぅらい」インデックス・コンテンツ等一覧

カテゴリー	コンテンツとオーラルヒストリー、コラム
1．沖縄の観光	沖縄美ら海水族館／国際通り／道の駅かでな／玉泉洞／アメリカンビレッジ／海中道路
2．平和への願い	平和祈念公園／ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館／旧海軍司令部壕
3．沖縄の世界遺産	今帰仁城跡／座喜味城跡／勝連城跡／中城城跡／首里城跡／園比屋武御嶽石門／玉陵／識名園／斎場御嶽
4．沖縄の生活文化	衣：芭蕉布／花織／琉球絣／ミンサー／紅型 食：料理／食材／果物／果物／レシピ 住：琉球村／中村家住宅
5．沖縄の自然	万座毛／古宇利島／伊江島／ガンガラーの谷／辺戸岬／大石林山／八重山諸島
6．沖縄の伝統文化	琉球舞踊／組踊／エイサー／獅子舞／琉球音楽／わらべ歌／沖縄空手／講演「沖縄の組踊」
7．沖縄の産業	焼物（やちむん）／琉球漆器／琉球ガラス／三線／織物／農業／水産業
8．沖縄の離島	川平湾／唐人墓／アンガマ／竹富島伝統的建造物群保存地区／離島をつなぐ橋／人頭税石（賦測石）
オーラルヒストリー	●戦中戦後の子どもからの視点オーラルヒストリー ●講演「首里城の復元と沖縄の文化」 ●沖縄エイサーの歴史オーラルヒストリー
コラム	●コラム「王女 百度踏揚」 ●コラム「沖縄の3大！？諺里方法」 ●コラム「カー」 ●コラム「琉球張子」 ●コラム「しまくとぅば」

	●コラム「沖縄県の県花デイゴ」 ●コラム「サトウキビ」 ●コラム「月桃」 ●コラム「ハーリー」 ●コラム「サトウキビ」

表Ⅵ-2　「沖縄おうらい」資料分類と学修ポイント・紹介

カテゴリー	学修のポイント・紹介
1．沖縄の観光	沖縄の産業の約８割が観光産業をふくむ第３次産業です。沖縄の美しい自然や独特の文化を求めて訪れる観光客は、本土復帰した 1972 年には 50 万人弱でしたが、令和元年では 1,016 万 3,900 人(令和２年１月発表 沖縄県入域観光客統計概況より)と年々増加し、過去最高を更新しています。観光は沖縄県の暮らしを支えているといえます。
2．平和への願い	沖縄は日本で唯一の地上戦が行われた地です。この地上戦により、子どもやお年寄りを含む、多くの住民たちが犠牲となりました。沖縄県では６月 23 日を「慰霊の日」とし、戦争で亡くなった外国人を含むすべての人の冥福と世界平和を願い、沖縄各地で「慰霊祭」を行います。戦争体験者が少なくなる中、現在でも沖縄各地で不発弾が発見されています。
3．沖縄の世界遺産	沖縄にあるグスク（城）および遺構から、５つのグスク（首里城跡、中城城跡、座喜味城跡、勝連城跡、今帰仁城跡）と、その関連遺産の４つの遺物（園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽）が 2000 年の第 24 回世界遺産委員会会議で世界遺産に「琉球王国のグスク及び関連遺産群」(公式名称）として登録されました。
4．沖縄の生活文化	沖縄の暮らしは、亜熱帯の気候風土や琉球王国時代の歴史文化に深く根差しています。暮らしの基本である「衣食住」には、医食同源の沖縄料理の伝統工芸の技法、各地域のさまざまな伝統芸能や風習、伝統行事と深く結びついており、長寿に快適に暮らすための生きる知恵がつまっています。
5．沖縄の自然	沖縄は高温多湿の亜熱帯で、真冬を除く年間３分の２でクーラーが使用されています。このような気候が多様な自然環境をつくり出し、独特の動植物の生態系を育んでいます。沖縄本島北部の山原は生物の宝庫、八重山（諸島）は東洋のガラパゴスといわれています。破壊された自然をもとどおりにするためには、大変な時間がかかります。大切に守り、未来に伝えていきましょう。
6．沖縄の伝統文化	沖縄の伝統文化は、14 世紀末から 16 世紀にかけて、琉球王国時代に日本と朝鮮、および東南アジア諸国との中継貿易、中国との進貢貿易により繁栄しました。そして海のシルクロードとして様々な文化が混ざり合い、独自の文化へと発展してきました。これらの伝統文化の歴史的背景を探り、沖縄の伝統文化の理解に努めましょう。
7．沖縄の産業	沖縄の産業はサービス業を中心とする第３次産業の比重が高く、中でも観光産業が急速に伸びています。琉球王国は「アジアの架け橋」として航海技術をもちいた海外貿易により発展し、多様な異文化が導入。それらは年月をかけて沖縄の風土に根付き、その技術や芸術性は沖縄の文化だけでなく、沖縄の産業の礎ともなっています。
8．沖縄の離島	沖縄県は有人島 49 島、無人島 111 島、計 160 島もの島々からなっています。沖縄本島も沖縄島とよばれ、周辺の島々と併せて沖縄諸島とよびます。石垣島や竹富島は八重山諸島に、宮古島は宮古諸島に属しています。これらの２つを併せて先島諸島と呼びます。石垣島や竹富島（八重山諸

	島)、宮古島などは観光リゾート地として注目を集めています。

（2）　オーラルヒストリーと関連資料

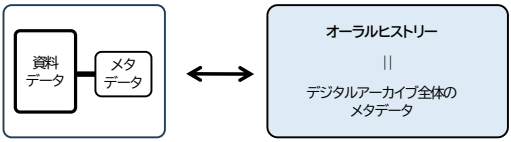
～学びの深みを入れる情報の提供と活用～

オーラルヒストリーとデジタルアーカイブ

デジタルアーカイブは、1つの事象に対して多様な資料や関連資料を収集している。

各資料データにはそれぞれメタデータが付与されていて、その内容を把握することができる。なかにはメタデータに関連資料情報を記している場合もあるが、多様に派生した資料データの関係性の全体を把握することは困難である。

オーラルヒストリーは、話者の文脈をもった語りや話からデジタルアーカイブ内の複数の資料データの関係性を把握することができ、いわば「デジタルアーカイブ全体のメタデータ」であると捉えることができる。



図Ⅵ-16　オーラルヒストリーとデジタルアーカイブ

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

削除 7

たとえば、首里城を構成する各資料データの内容はメタデータに記録されているが、首里城全体の内容や多様な関連資料データ間の関係性については、首里城に関するオーラルヒストリーの視聴によって理解することができる。

このようにデジタルアーカイブにおいて、オーラルヒストリーは次のように利活用できる。

a．口承による歴史の記録

b．当事者の証言の記録

c．収集した資料データ全体の明らかにするという意味でのメタデータ

エイサーのオーラルヒストリー（宜保榮治郎氏）関連映像

沖縄のエイサーの歴史として、宜保氏は、エイサーの現状、歴史的変化、さらに 1600 年頃のいわき市から来られた袋中上人の話「おもろ」についての関係などをオーラルヒストリーとして紹介されている。この広い観点での話と合わせて、関係写真を提供している。

図VI-17 「沖縄おぅらい」の事前学習を意識した構成

削除 18

宜保榮次郎氏よるエイサーについてのオーラルヒストリー(一部)

図Ⅵ-18 エイサーのお話しをされる
宜保榮次郎先生

（略）沖縄の文献をずうっと調べてみると、袋中上人が1603年ですか、沖縄に来られて浄土宗を広められたと。そして、今度行かれた方がいいと思いますが、桂林寺跡というのが商業高校の裏側の方にありまして、この袋中上人が沖縄に来られて浄土宗を広められたと。そして、そのときにお経を庶民にわかりやすく沖縄の言葉に訳して教えたということが、はっきり『球陽』という本とか『琉球国由来記』という本に出ているんですね。そういうことがはっきりしているのに、まだ盆踊りというものは本当に袋中上人が持ってきたかどうかわからないというふうになっていたんですね。そして、お盆の季節になると、新聞が、各村々でエイサーが行われていると、それは全部五穀豊穣を目的とした行事であるというふうなことを言っていたんですね。

そういうことでやりましたら、外間守善先生が、本土の方の第一書房だったかどこかと提携しまして、その沖縄の歌を全部拾い集めると、これまでのものを。そういうことがありましたから、私は、じゃあこのエイサーのもと歌がどこかに残っていないかということで、ここの南部島尻あたりに調査し始めたんですね。これが見事な形で残っているんですよ。そして、私は、この一つの村を採集するのに２日も３日もかかりますから、それをずうっと追跡していって、私は５つばかりですかなあ、「仲順流れ」の歌をずうっと集めていったんですね。そしてそれを外間先生の方に送りましたら、先生もびっくりしておられたんですね。というのは、外間先生自体が、もうすべて沖縄の歌謡のもとは『おもろさうし』であるというふうに思い込んでおられるんですね。そして、今度は先生が、エイサーはおもろから発生してきたんだとおっしゃるのは、「エイサーおもろ」というのがおもろの中にありましてね、そして先生は、この「エイサーおもろ」からエイサーは発展してきたんだという説をずっと持っておられますけれども、私は、そうじゃなくて、こういうふうに「盂蘭盆経」という中国のお経が日本に渡ってきて、そしてそれが浄土宗のお坊さんの方で勉強なされて、袋中上人は沖縄に来られて、お盆のときにこういう芸能をやりなさいと。そしてそのときに、親の供養は大切であると、あるいは亡くなった人の供養は大切であるということを、この「仲順流れ」というお経で教えられたというふうにして話しましたら、次第に近ごろは新聞の方も、エイサーは念仏踊りであると、そしてお盆の目的は供養であるというふうなことで、ようやく私が説明したことがあるわけですね。だから、私が第一発見者というわけじゃないんですね。山内盛彬という大正のころの有名な沖縄の学者、あの人がもう触れておられまして。（略）

「宜保榮次郎氏『エイサー オーラルヒストリー』」より
（撮影日：2005年12月24日）

図VI-19 宜野湾市青年エイサー祭り　小太鼓と踊り手

図VI-20 道ジュネー

図VI-21 じゃんがら念仏踊り　鉦（しょう）いわき市

図VI-22 じゃんがら念仏踊り　太鼓　いわき市

図VI-23 能満寺　境内の碑　袋中上人生誕地

図VI-24 いわき市　菩提院　境内の様子

（沖縄のエイサーといわき市の念仏踊り）

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：8 pt

書式変更: 中央揃え

首里城の歴史と沖縄の文化　高良倉吉氏
（戦後の復元について）

Lectures

講演『首里城の復元と沖縄の文化』高良倉吉氏（琉球大学）

内容紹介

3 章 沖縄の江戸参府

図VI-25　「沖縄おぅらい」冊子内の首里城の関わるオーラルヒストリー

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

また、「沖縄おぅらい」の各コンテンツは沖縄県の代表的な事例ばかりであるが、修学旅行内で行くことができなかった場合も、沖縄を知る上で一度は実際に

観光・体験したり、知ってほしい歴史や文化、場所である。

卒業後にも、沖縄への観光のリピーターとなり、沖縄を訪れる計画に入れてほしい場所ばかりである。

図Ⅵ-26　首里城正殿

図Ⅵ-27　首里城正殿　正殿正面の唐破風飾

図Ⅵ-28　首里城正殿　正殿内部　二階御差床正面

図Ⅵ-29　首里城正殿　夜のライトアップ

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: フォント：(英) BIZ UDP明朝 Medium

書式変更: グリッドへ配置しない

高良倉吉氏による首里城再建についての特別講演会(一部)

（略）結果としては、地上にある首里城が跡形もなく、完膚なきまでに破壊されたという状況であったわけです。

その戦争が終わって、皆さんご存じのように沖縄はアメリカ軍に占領されて、47 都道府県から沖縄県のみを分割して、アメリカの直接統治、支配という体制に置かれます。アメリカは冷戦がやがて始まりますので、世界に大きな軍事拠点を建設する必要があったわけですが、それに適していたのが沖縄だっ

図Ⅵ-30 首里城のお話しをされる高良倉吉先生

たわけですから、使い勝手がいいように日本の施政権から分離して、アメリカが直接に沖縄を支配するという体制が誕生します。まさに基地建設のために、あるいは軍事的な、戦略的な目的のために、沖縄県の島々を利用するというか、活用するということになりました。

そのアメリカ統治の中で、私が勤めております琉球大学という大学が、1950 年、終戦の 5 年後に首里城の跡に建設される。キャンパスになっていくのですね。そこでさまざまな人材が育っていくわけでありますけれども、やがて沖縄の人たちはアメリカ統治の中から、自分たちの祖国は日本だという声が高まって、日本に復帰しなければならないという運動が高まり、やがてアメリカ統治時代が終わります。しかし、基地を残したままで沖縄が日本に返還されるという、これが 1972（昭和 47）年のことです。

そのことによって琉球大学が国立大学になりまして、キャンパスが狭いというので、首里城の跡に置かれたキャンパスから、現在の新しいキャンパスを求めて移転するということになり、琉球大学が移った後に、その場所をどのように使いますかという跡地利用検討というものが始まっていって、実は私はそのときから深くかかわったというわけです。

検討委員会が何度も開かれましたけれども、結論は、首里城の建物の復元を含む歴史公園として整備したらいいじゃないかというようなことに決まりました。誰が考えても、結論はそのようにしかならないわけですね。

問題になったのは、では、いったい誰がその事業を中心になってやるのかと。お金にして何百億円。当然、200 億円とか 500 億円というお金が必要になってくる。あるいは、もっと必要かもしれません。それをどうするかという、ちょっと難しい問題はたくさんあったのですが、何とかクリアしまして、一応首里城の建物の復元を含む歴史公園として、首里城復元プロジェクトを進めていこうという結論に達しまして、それ以降、本格的な首里城の復元作業が始まっていくという流れになります。

まず、どのレベルで首里城を復元するのかということが当然問題になります。一番手っ取り早い方法は、アメリカ軍に破壊される前、戦争の前の首里城を復元すればいいじゃないかと。写真もたくさんあります。アメリカ軍が空から撮った写真もあります。それから、戦争で破壊される前の首里城で遊んだとか、見学したという、首里城をたくさん覚えていらっしゃる方もいるわけですから、そういう点でいけば、戦争で破壊される前の首里城を復元するのが一番楽なのですが、われわれはあえてそのことを目的にしなかった。

当時、われわれは酔っぱらうといつも言っていたのですが、われわれがやろうとしているのは中古車を復元するのではないと。ぴかぴかの新車を復元しようと。つまり、首里城に王がいて、家来がいて、アジアとの交流の拠点になっていて、島々を支配する体制が息づいていたころ。つまり首里城が生きて呼吸している、現役であった、それをわれわれは新車と言い、その新車を復元するんだというように、われわれはよく言ったのですが、目標をそうしました。往時の首里城を復元するということです。

そうすると、これは言うのは簡単ですけれども、誰も見たことがないわけです。何しろアメリカ軍が破壊する前の首里城というのは、王様が明治 12 年に首里城から出まして、軍隊の駐

屯所になって、やがて学校に使われたりして、解体修理があってというように、実は元首里城、首里城跡というのが、その後続いただけの話です。　それを明治12年の春、琉球王国がなくなる以前の状態に戻そうという、とんでもないテーマを掲げたわけですから、それがいかに困難であるかということは当然予想されたわけですけれども、それはたぶんわれわれの責任だろうと。ハードルを一番高くしておいて事業をしたほうが、はるかに多くのことが深められるのではないかという思いです。

　具体的には、それは二つのことを意味する。まず、首里城に関する本格的な研究を始めてみようということになります。首里城を研究しなければ、まさに首里城を解剖しなければ復元はできない。当然、そういうことを意味するわけですね。

　そのためには、二つ目は何かというと、徹底した資料収集をしようと。それは、先ほどのアメリカ軍が撮った空撮の写真から、戦前の古写真は当然です。発掘調査をして地下に埋まっている情報を採る、それも当然です。琉球王国時代の首里城に関するさまざまな資料を、徹底的に収集して分析する。（略）

「高良倉吉氏『特別講演　首里城の復元と沖縄の文化』」より
（撮影日：2005年11月21日）

（加治工尚子、加藤真由美）

書式変更 ...
書式変更 ...
書式変更 ...